

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	こぼん			
○保護者評価実施期間	2025年 6月 1日		～	2025年 6月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数)	5
○従業者評価実施期間	2025年 6月 1日		～	2025年 6月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数)	15
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 6日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・一日を通して子どもの生活全体を見据えた療育を行っており、活動や生活の流れの中で発達を支える支援を行っている。	・子どもの生活全体を見据え、活動だけではなく日常生活の流れの中で療育を行うことを意識している。	・子ども一人ひとりの特性や発達段階に応じた支援がより充実するよう、職員間での情報共有や振り返りを行いながら支援内容の工夫を進めていく。
2	・食育（偏食）支援にも力を入れており、食事や食に関する活動を通して、子どもの健康や生活習慣の形成に繋がる支援を行っている。	・おやつ作り、昼食作りなどを通して食材に触れる、自分の作ったものを食べる活動も取り入れ、少しでも食べられる食材を増やし、健康や生活習慣の形成に繋がる支援を行っている。	・食育活動の内容の充実を図り、子どもの健康や生活習慣の形成に繋がる支援を継続していく。
3	・行動面で配慮が必要な子どもなど受入が難しいケースについても、特性理解に基づいた支援を行い、安心して利用できる環境づくりに取り組んでいる。	・子ども一人ひとりの特性や行動の背景を理解、分析し、環境調整や関わり方を工夫しながら安心して過ごせる支援を意識して取り組んでいる。	・子ども一人ひとりの特性理解をさらに深めるとともに、職員間での情報共有や研修等を通じて理解を深め、より適切な支援につなげていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・家庭支援に対する専門的支援	・子どもの特性や支援ニーズが多様化していることから、より専門的な知識や支援方法の共有が必要となっている。	・子どもの特性理解を深めるため、職員間での情報共有や事例検討を行い、支援方法の共有を図っていく。
2	・行動面で配慮が必要な児童の利用が多いため、より安全で安心した支援体制を整えていくことが課題である。	・職員体制や経験年数の違いにより、支援の質をより統一していくことが課題となっている。	・安全で安定した支援が行えるよう、職員間の連携を強化し、支援体制の充実を図っていく。
3			